



株式会社 ファルマ

弘前市北横町 19-1

Tel 0172-37-6016(代)

発行：編集委員会

印刷：小野印刷

■ 第 152 号 ■

全日本民医連 平和の波交流会に参加して

本部 工藤 由希子

8月8日(土)全日本民医連平和の波交流会がzoomで開催されました。

はじめに、全日本民医連反核平和委員会の上原昌義副会長より開会のあいさつがあり、今もつとも懸念される脅威は核兵器の



zoomの様子 (ファルマ弘前薬局)

軍縮機構の崩壊だというお話がありました。いまだ1万発をこえる核兵器が存在し、危険な核軍備競争が再び始まれば、わたしたちは最悪な脅威に直面してしまいます。そうならないためにも、日本は核兵器禁止条約を批准し、

核兵器のない世界へ導くリーダーになるべきだとおっしゃっていました。学習企画では、原水爆禁止日本協議会常任理事の前川史郎氏より「核兵器禁止条約発効後の世界」についての講義がありました。核兵器禁止条約の中身について、核兵器のあらゆる面(保有、使用、実験、威嚇、開発、持ち込み)を禁止することや、発効に必要な50カ国まであと7カ国であることなど、詳しくお話いただきました。また、広島や長崎に原爆が投下された時間は多くの人々が外に出ている時間であり、多くの人を短時間で殺すため投下の時間まで設定していたそうです。このような非人道的な核兵器をなくすための核兵器禁止条約を、ヒバクシャ国際署名を集めることにより、大きな世論にし、日本政府・核保有国につきつけることが必要だともおっしゃっていました。

このほかにも、韓国緑色病院からのビデオメッセージや唄三線とベースのデュオ、広島民医連・長崎民医連の取り組みの他、各地から取り組みの報告

「ファルマーツ谷薬局待合室拡張」

ファルマーツ谷薬局の待合室を拡張しました。広くなった待合室を紹介します。入口の左側にお部屋を作りました。現在は新型コロナウイルス感染症予防のため、間隔をあけて椅子を配置しております。



今までのファルマーツ谷薬局



左側にお部屋ができました

ですが、収束しましたら椅子を増やす予定です。また、待合室が広くなったので大きいテレビを設置しました。広く、明るくなったファルマーツ谷薬局を是非一度ご覧ください。

社内漢方薬学習会

ファルマ弘前薬局 薬剤師 奈良 美春



8月24日(月)に漢方薬学習会が行われました。最初に漢方の新商品の生脈散、玉屏風散、絹のしずく石鹸、小太郎のしょうが湯の4種類について学びました。絹のしずく石鹸は肌に潤いを与えるセリシンが

含まれており、いただいた試供品を使用すると肌がつるつるした感じがしておすすめです。学習会後半では、漢方の歴史について学びました。大学時代に勉強した人物名・文献名が出てきて、懐かしさを感じ、とても興味深かったです。次回の漢方薬学習会もぜひ参加したいです。

16才のわたし

黒石薬局 薬剤師 小原 晴子

これといった特技などない私に原稿依頼が来た時に何を書こうか前から考えていました。小学生から振り返ってみても特別熱中し続けたものもなく、ふと子ども時代に自分で購入した一番高額な物は？と考えたら中3の時にお年玉で買ったカメラを思い出しました。



笑顔で写る小原薬剤師(中央)

中学時代行事や遊びで、友人がたまたま持ってきたカメラで写真を撮っていたのを見て自分も欲しくなったのがきっかけだったと思います。たまたま目にした広告にカメラが載っているのを見て欲しくなり、2万円位のズーム付きフィルムカメラを購入しました。

残念ながら何を初めに撮ったのかは記憶にありません。受験時期で遊びにもいけないので、家の中で年の離れた弟を写していたような気がします。高校生になると学校の行事には必ず持参しクラスの皆や友人で撮ったり、部活の先輩なども撮ったりしました。その後はミニアルバムを作成し、みんなにまわして焼き増しをしていたことが思い出として残っています。運動会・遠足・文化祭・ねぶたなど色々な写真が残っています。高校2年生の修学旅行にももちろん持参し、金閣寺や風景なども写しました。色々写した中でも一番多いのはみんなが笑顔の写真です。

16歳頃の私は行事好きで、いつもカメラでみんなと写真を撮っていたことを思い出しました。その後デジタルカメラが世の中に誕生し我が家でも3~4台と世代交代をして家族写真などを撮ってきました。今はスマホの方が携帯も楽で画質も良いのでそちらを主として使うようになっています。

社内接遇セミナー

ファルマ弘前薬局 薬剤師 小田 由衣

社内接遇セミナーを終えて、今まで当たり前にしていた挨拶や言葉遣いの大切さについて再確認することができました。人に会ったら挨拶をする、身だしなみを整える、言葉遣いには気をつけるなど日常的に行っていたのですが、なぜそれをしなくてはならないのか深く考えたことはありませんでした。

印象は視覚情報と聴覚情報がほとんどを占め、5秒で印象が決まるといいます。対の例から問題点や改善点を話し合うディスカッションを行い、対応の基本や普段の業務で使えるマジックフレーズを学びました。



テーブルの配置を工夫しました

ることを学びました。このセミナーで得たことを業務に活かせるよう努めます。

写真紹介

八戸医療生協へ接遇講師



講義を受ける参加者の皆さん

8月18日(火)八戸医療生活協同組合で法人学習会が開催され、本部の阿部課長補佐が接遇講師を務めました。参加者は接遇の基礎やコミュニケーションなどについて、詳しく学びました。

津軽保健生協社保委員会へ出張出前講座



9/17出前講座の様子

8月20日(木)と9月17日(木)に津軽保健生協会館で津軽保健生協社保委員会主催の出張出前講座が開催されました。講師は高松相談役で、8月20日は「津軽圏域の二次救急の現状と地域医療構想の問題点」について、9月17日は「国民保険料の引き下げを求める運動」について話しました。とても丁寧でわかりやすかったと好評でした。

憲法9条守れ、戦争法廃止!集会とパレード



9/19多くの職員が参加

8月23日(日)と9月19日(土)に駅前りんご広場で憲法9条守れ、戦争法廃止!集会とパレードが開催されました。9月19日はファルマから12名が参加し、「アベ政治」継承内閣反対を訴え、約70名の参加者がパレードを行いました。

市民カフェひろさき

専務取締役 崎野 修

8月29日(土)「第9回市民カフェひろさき」が弘前市民会館で開催されました。今回は「新型コロナウイルスから見てきた地域医療の問題点」というテーマで、弘前市医師会澤田美彦会長、黒石病院相馬院長の二人がパネリストでした。澤田先生からは医師会のコロナウイルス対策と開業医としての問題意識について、相馬先生からは地域医療における自治体病院の課題について報告されました。

地域医療構想によって病床削減が進む中で今回の新型コロナウイルスが直撃した形となり、津軽圏域では感染患者の受け入れ体制や検査体制が脆弱であることが明らかとなりました。加えて医師不足だけでなく、現場を支える看護師が相当に不足している実態が浮き彫りとなり、新型コロナウイルス対策のみならず今後の地域医療のあり方について考えさせられる機会となりました。

一方で見方を変えてみると、新型コロナウイルスにより国民の医療問題に対する関心がかつてない高まりを見せています。これを医療再生の機会と捉えて医師・看護師不足の解消と社会保障の拡充を目指すことが大切だと感じました。



会場の他 zoom でも配信されました

たまち のだ支所へ出張出前講座



わかりやすかったと好評でした

9月25日(金)健生訪問看護ステーションたまち のだ支所で出張出前講座が開催されました。講師は弘前調剤センターの阿保主任で医療用麻薬の「オピオイド鎮痛薬」について話しました。参加者は10名でした。

東部仲町へ出張出前講座



とても役に立ったと好評でした

10月4日(日)弘前市社会福祉センターで東部仲町まつり出張講座が開催され、弘前調剤センターの津川薬局長が講師を務めました。「薬の役割と飲み続けるリスク」をテーマに話し、30名が参加しました。「薬について考えるきっかけになった」「とても勉強になった」などの感想がありました。